

## トップ インタビュー

### (株) オリентコーポレーションの 情報システム戦略

本日は、今月号に「事例」を掲載して頂いた(株)オリエン  
トコーポレーションの事務シ  
ステム本部長に、情報システム戦  
略等について伺いました。



話し手 相良 和也氏  
(株)オリエンコーポレーション  
専務取締役 事務システム本部長

—最初に、事務システム本部の  
社内での位置づけについてお  
伺いしたいのですが。

営業と事務は企業にとっての  
両輪と思っています。すなわち、  
お客様に向けての側面と社内の  
効率化に向けての側面です。お  
客様サービスの向上、営業事務  
の効率化にとって今や情報シ  
ステムは欠く事のできないもので  
あり、当本部の任務もそこにあ  
り重責を担っています。

—コンピュータ関係の技術は  
日々進歩していますが、今後  
どのような取組みをなされて  
いくお考えでしょうか。

—一番の課題は生産性をどう高  
めていくか、ということです。

そのためには、世の中のツ  
ールから自分達に合ったものを見  
つけ積極的に試していくことが

大切と考えています。また、従  
来のウォーターフォール型の開  
発だけでなく EUC(エンドユー  
ザ・コンピューティング)にも  
取り組んでいきます。

一方、システムの形態として  
はホスト集中型からクライアント  
/サーバ型+オープン化指向  
に向けての取組みを行っていき  
たいと考えています。

もう1つはマルチメディアが  
あります。現在は、まだ部分的  
なマルチメディア・システム  
の実現の段階です。システム・  
トータルなマルチメディア化の  
ためには、回線スピードのアップ  
等まだまだ解決しなければなら  
ない問題が沢山あると考えま  
す。しかし、今後に向けて注視  
していくことが必要であると思  
います。

—御社における情報システム戦  
略をお聞かせ下さい。

大きく2つの柱を考えてい  
ます。

1. 当社基幹システムである  
オリオンシステムを抜本的に見  
直して営業強化をサポートして  
いくことが必要です。

お客様のニーズがどんどん変  
わってきたため、当初の設計思  
想とは一致しない面が見受けら  
れるからです。また、技術的進  
歩性も薄れつつあります。

実は、先ほどお話した生産性  
向上もここに活かそうとして取  
組みを始めようとしているの  
です。

また、今回の阪神大震災の教  
訓をもとに災害や事故にも強い

システム作りを行っていく予定  
です。

2. もう1つの柱は事務の効  
率化と標準化です。全国に200  
以上ある営業現場の事務を徹底  
的に標準化するとともに、事務  
の生産性指標値のバラツキを抑  
えることを考えています。その  
ためには、新しい技術を導入し  
ていくことが必要だと考えてい



聞き手 大橋 康  
情報処理学会誌編集委員

ます。これらは、今後のシス  
テム拡充計画と表裏一体を成して  
いく訳です。

—そのためには人材育成が大切  
と思いますが、最後に、人材  
育成の考え方をお聞かせ下  
さい。

個人持ちになったノウハウを  
いかに組織的ノウハウとしてい  
くかそして、この部門にいてよ  
かったと思ってもらえる技術者  
の人事制度の確立がキーポ  
イントです。

本日はどうもありがとうございました。

(平成7年5月実施)